

現代映像プロデュース論2010

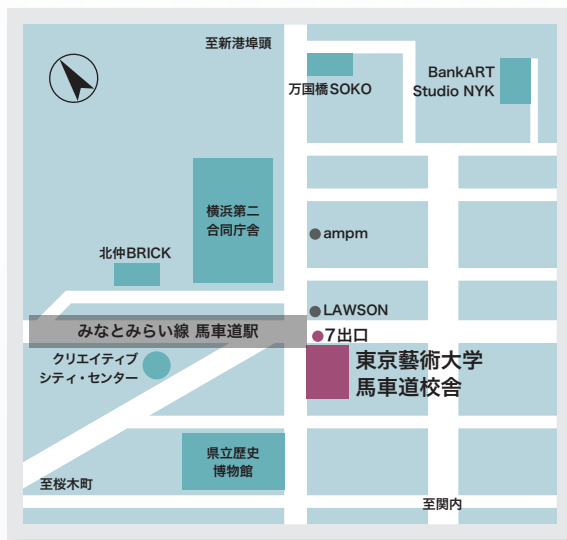
～最もホットな人の、最も新しいビジョン～

PRODUCE

東京藝術大学大学院映像研究科とは

2005年に、学部を持たない独立大学院として、映画専攻が発足、2006年メディア映像専攻設立、そして2008年にアニメーション専攻が設立されました。アニメーション専攻では、革新的なアニメーション表現や新たな教育・研究や事業スキームの創造をめざし、「つくる」ことを主体としたカリキュラムにより、次世代のリーダーの育成に努めています。

会場: 東京藝術大学 横浜校地 馬車道校舎
アクセス みなとみらい線「馬車道駅」7出口を出てすぐ



「現代映像プロデュース論」企画・モデレーター

岡本 美津子 東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻教授



岡本 美津子 プロフィール: NHKプロデューサーとしてデジタルアート作品の公募番組「デジタル・スタジアム」や、データ放送、インターネット、携帯コンテンツの開発などを行う。2007年から同大学院にて企画プロデュースの研究、教育を行う。2010年4月からNHK教育テレビで毎週月～木放送中の「2355」「0655」のプロデュースも手掛けている。

<参考：2009年 現代映像プロデュース論 講師>

- 第1回 講師：野村辰寿氏 (株) ロボット アニメーション作家
- 第2回 講師：丸田順悟氏 (株) マッドハウス 元 代表取締役社長
- 第3回 講師：マーシー・ペイジ氏 カナダ国立映画制作庁 プロデューサー
エレヌ・タンゲ氏 元カナダ国立映画制作庁 マーケッター
- 第4回 講師：竹内宏彰氏 (株) シンク 取締役エグゼクティブプロデューサー
- 第5回 講師：中山幸雄氏 (株) フロンテッジ ソリューション本部長/ECD、BERLIN SCHOOL

<http://animation.geidai.ac.jp/pd2010/>

現代映像プロデュース論2010

～最もホットな人の、最も新しいビジョン～

PRODUCE



第1回 2011年1月28日(金) 18:30～20:30 (18:00 開場)

「才能発掘の場としてのフェスティバル」

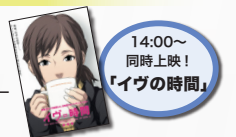
講師：木下 小夜子 広島国際アニメーションフェスティバル フェスティバルディレクター



第2回 2011年2月5日(土) 14:00～上映(13:30 開場) / 15:30～17:30 講座

「インデペンデント監督のプロデュース論」

講師：長江 努 (株) ディレクションズ 代表取締役 「イヴの時間」プロデューサー



第3回 2011年2月11日(金・祝) 15:00～17:00 (14:30 開場)

「アニメの製作スキーム」

講師：亀田 卓 (株) 電通 テレビ&エンタテインメント局



第4回 2011年2月25日(金) 18:30～20:30 (18:00 開場)

「監督をつくる～プロダクションI.Gの戦略」

講師：石川 光久 (株) プロダクション・アイジー 代表取締役社長



第5回 2011年3月11日(金) 18:30～20:30 (18:00 開場)

「NHKみんなのうた～壮大な才能開拓プログラム」

講師：飯野 恵子 (株) NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー

企画・モデレーター 岡本美津子(東京藝術大学大学院映像研究科 教授)

入場無料 事前申込不要

主催：東京藝術大学 後援：横浜市

現代映像プロデュース論 2010

～最もホットな人の、最も新しいビジョン～

アニメーション大国といわれる日本。現在は、この半ば無自覚に発生、継承されてきたアニメーションという文化を、自覚的に将来にわたって発展させていくべき時期を迎えています。それには、作家・監督のみならず、コンテンツ企画や事業スキームを設計するプロデューサーの役割がたいへん重要です。

メディアミックスや国際共同制作などグローバルな展開を見せるアニメーション界にあって、コンテンツ制作ひいては、日本のアニメーション界に対してどういうビジョンを描き、

どういう事業を展開し、どういう人材を育成していくか、まさに今に生きるプロデューサーたちが取り組まなければいけない問題だと考えます。

東京藝術大学大学院映像研究科では、このような趣旨にのっとり、第一線で活躍するプロデューサーやディレクターたちをお招きし、公開講座を行います。2009年に引き続き、今年で2年目になるこの講座が、現役プロデューサーおよびプロデューサー志望者、そしてコンテンツリーダーたちに明日へのビジョンを与えるものになればと思っています。

第1回 2011年1月28日(金) 18:30～20:30 (18:00 開場)

「才能発掘の場としてのフェスティバル」

講師：木下 小夜子 広島国際アニメーションフェスティバル フェスティバルディレクター



アニメーション監督にとっての成功型の一つは世界的なフェスティバルで評価を受けること。2010年8月に13回を迎えた「広島国際アニメーションフェスティバル」は、世界4大フェスティバルとして、その役割を担ってきました。メディアが発達し、アニメーションの評価軸も多様化した今、真のアニメーション評価と才能発掘の場であるフェスティバルはどう変わっていくべきなのでしょう。

木下 小夜子 プロフィール：アニメーション作家／プロデューサー。代表作「MADE IN JAPAN」('72)、「ピカドン」('78)、「最後の空襲くまがや」('93)、「琉球王国-Made in Okinawa」('04)等は、各国の国際映画祭にてグランプリや優秀賞を多数受賞。'85年、広島国際アニメーションフェスティバルを設立、以後、総指揮を歴任。国際的にアニメーションメディアを基軸とした制作・開発・教育・振興等の活動を展開。国際アニメーションフィルム協会 (ASIFA) 副会長、同日本支部会長。日本アニメーション学会顧問。大阪芸術大学客員教授。

第2回 2011年2月5日(土) 14:00～上映 (13:30 開場) / 15:30～17:30 講座

「インデペンデント監督のプロデュース論」

講師：長江 努 (株)ディレクションズ 代表取締役 「イヴの時間」プロデューサー



現在、日本において、インデペンデントの若手監督が劇場作品特に長編を作ることは、予算的に、パワー的にもかなり難しいといわざるをえません。また、そのデビューの道筋はほとんど用意されておらず、これに挑戦しようとするプロデューサーもほとんどいません。インデペンデント監督のオリジナリティあふれる企画・制作力を生かすことは、日本のアニメーション界の明日への発展のために必要・不可欠なのではないでしょうか。

長江 努 プロフィール：1964年生まれ。映像制作会社ディレクションズ代表。番組プロデューサーとしてNHK『デジスタ』『ビットワールド』『シャキーン!』などを立ち上げ。2009年度国際エミー賞グランプリ受賞『星新一ショートショート』ではアニメ話を全体プロデュース。自社製作『イヴの時間』『こびと観察入門』『i3DG』他。twitter: @tomnaga



14:00～
同時上映！
「イヴの時間」

若手インデペンデント監督吉浦康裕の起用で話題になった「イヴの時間」劇場版を同時上映いたします。文化庁メディア芸術祭2010審査員特別賞受賞ほか、世界的フェスティバルでの受賞多数。

©2009/2010 Yasuhiro Yoshiura / DIRECTIONS, Inc.

第3回 2011年2月11日(金・祝) 15:00～17:00 (14:30 開場)

「アニメの製作スキーム」

講師：亀田 卓 (株)電通 テレビ&エンタテインメント局



「製作委員会方式」。複数社がファンディングを行い、グループで制作をプロデュースするこの方式は、世界的にみても非常に稀有な方式であると言われます。また、キャラクターグッズなどのマーチャンダイジングまで含めた資金回収計画は、少子化の影響を大きく受け始めています。TVメディアの相対的地位が下降し、製作がグローバル化する中、今後の日本のアニメーション製作のスキームはどうあればよいのかを考えます。

亀田 卓 プロフィール：エンターテインメントと金融を融合させたビジネスを志し、「日本初のイベントの証券化」等、次々と手がけた。現在は電通にて、コンテンツ投資ビジネスに関わっている。共著に「文化に投資する時代」(朝日出版社)、「映画プロデューサーの基礎知識」(キネマ旬報社)、「エンターテインメントと法律」(商事法務)、「プロデューサー・カリキュラム」(経済産業省)などがある。

第4回 2011年2月25日(金) 18:30～20:30 (18:00 開場)

「監督をつくる～プロダクションI.Gの戦略」

講師：石川 光久 (株)プロダクション・アイジー 代表取締役社長



近年、国家的な産業としてアニメーション産業を育成する国々が増え、そこでは国家規模で資金的、施設の助成や育成への援助が行われています。ところが「監督だけは育成できない」という声をよく耳にします。企画のオリジナリティや映像クオリティへのこだわり。脚本、音響、そしてアニメーターなど、アニメーション制作に関わる多くのスタッフへのリーダーシップ。それらを兼ね備えたアニメーション監督を、今後も輩出し続けるためにはどうすればよいのか、その時のプロデューサーの役割はどうあればよいのでしょうか。

石井 光久 プロフィール：1958年生まれ。大学卒業後、竜の子プロダクションに入社。1987年、独立し創業。主なプロデュース作品として、劇場「機動警察パトレイバー2 the Movie」('93)、劇場「GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊」('95)、劇場「人狼 JIN-ROH」('00)等がある。

第5回 2011年3月11日(金) 18:30～20:30 (18:00 開場)

「NHKみんなのうた～壮大な才能開拓プログラム」

講師：飯野 恵子 (株)NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー



2011年4月に、放送開始から50年を迎える「NHK みんなのうた」。そのアニメーション制作者にはそうそうたる名前が連なっており、ある意味、短編アニメーション作家の才能を開拓してきたプログラムともいえます。インキュベーションとしての放送番組およびテレビメディアが果たすべき役割とは何でしょうか。また、50年という継続した蓄積を持つコンテンツを、今後、将来に向けてどう生かしていけるのか、その課題と可能性についても議論します。

飯野 恵子 プロフィール：日米の大学で比較演劇・舞台芸術・映像論を専攻。帰国後、NEPにて国際音楽イベント制作・運営、世界20カ国の長編映画の企画開発支援に関わり、'01年より「みんなのうた」担当。大きな古時計・りんごのうた・ぼくはくま・おしりかじり虫・魔法の料理などを手がける。気鋭の若手映像作家の発掘を積極的に行い国内外の映像祭などで数々の賞を受賞。'09年同番組初の舞台「ハイ！グラスホッパー」(主演：高見のつば)では脚本・演出を手がけ、'10年、厚生労働省社会保障審議会推薦 児童福祉文化財に指定、各地で上演。